

2026年2月2日（月）14:00 – 16:00

開催場所：オンライン（ZOOMを想定）

AI・ロボット駆動型ラボシステム構築への挑戦

AIとロボット技術の革新により、これまで人手に依存してきた研究開発プロセスを、AIと実験ロボットによって刷新する動きが加速している。こうした変革を実現するには、研究開発という不定形かつ複雑な業務に適したラボシステムの構築が不可欠である。

本シンポジウムでは、AI・ロボットの先進的な取り組み事例を紹介するとともに、その経験や最新の技術動向を踏まえた効果的なラボシステム構築の要点や、データプラットフォーム構築による材料開発の意義についても議論する。

プログラム

司会：岡征子（一般社団法人 研究基盤協議会理事）

14:00～14:05 開会挨拶 吉田秀人（JAIMA専務理事）

14:05～14:15 JAIMA講演

テーマ：マテリアル領域におけるAI・ロボット駆動型ラボシステム構築の課題
杉沢寿志（JAIMA技術委員長）

14:15～14:30 話題提供者①（発表10分／質疑5分）

テーマ：Self-driving laboratory の世界動向とその普及に向けた取り組み
吉川成輝（主任研究員・物質・材料研究機構マテリアル基盤研究センター）

14:30～14:45 話題提供者②（発表10分／質疑5分）

テーマ：大学共同利用機関におけるAI・ロボット駆動型ラボシステムとは
清水亮太（教授・自然科学研究機構分子科学研究所）

14:45～15:00 話題提供者③（発表10分／質疑5分）

テーマ：自動実験システム×MaIMLデータプラットフォームによる材料開発の革新
高橋顕（主任研究員・産総研材料基盤研究部門）

15:00～15:15 話題提供者④（発表10分／質疑5分）

テーマ：ラボと生産技術・生産ラインをつなぐための要点
長藤圭介（教授・東京大学工学部機械工学科）

15:15～15:50 CORE講演と総合討論

討論テーマ：AI・ロボット駆動科学のためにコアファシリティの向かうべき姿

政策課題提示：井上諭一（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官）

ファシリテータ：江端新吾（CORE会長）

15:50～16:00 総括：井上諭一